

質問に対する回答

質問受付期間: 2023年5月15日(月曜)～5月31日(水曜)

課題	質問	回答
課題① 無人機を使用した海底調査及び船底調査	実証を行う港湾、河口の候補地が決まっていたら、差し支えない範囲でご教示いただけますでしょうか。	具体的な実証候補地は定めておらず、採択決定後、課題提出者・採択者・神戸市企画調整局の3者で相談し、決定します。
	実証実験時に警戒船の配置は必要でしょうか。必要な場合には警戒船の用船費用借上費用は補助対象経費に含まれるかどうか、経費科目も含めてご教示いただけますでしょうか。	警戒船が必要となる場合、用船費用も補助対象となります。経費科目は「その他」で申請ください。
	現状の潜水員や船による調査ではどのような調査を実施していますでしょうか。また、実施エリアについて具体的な場所(エリアの広さ)、水深、流速、波の高さを教えて頂けないでしょうか。また、実際にボート型の計測機をお持ちし測定をすることを計画しておりますが、これら測定機の入水場所の確保が可能か、また操作者が操作できる場所の確保が可能かをご教授下さい。	現状の調査の細部については申し上げられませんが、エリアの広さは最大幅約1,000m×10kmと考えております。水深等は、広範囲のため一義的に回答することは難しいですが、具体的なエリアは大阪湾内のため、波はほぼないものと想定しております。
	船底調査について、具体的にどのような調査を実施していますでしょうか。また、課題詳細については船底調査について記載がないのですが必須でしょうか。	今回の課題は無人機等の新しい技術を使い、船の停泊に関わらず、効率よく海底の状況を把握したいという提案です。船本体の調査を指すものではございません。
	課題詳細で定期的な観測との記載がありましたが実証実験で複数回の調査は必要でしょうか。また、平常時、災害時での調査内容について教えて頂けないでしょうか。	必ずしも複数回の調査が必要というわけではございません。平常時は、特に水深が変化しやすい河口付近での調査、災害時は、港湾への浮遊物及び漂着物の調査をすることにより、入港の可否を判断する助けとしています。
	海底状況の可視化によって確認されたいものは具体的にどのようなものでしょうか。例えば、海底の地形調査、堆砂状況等、過去の測定された測定情報や、初めに港を設計された際の図面などを共有いただくことは可能でしょうか。	図面などの提供はいたしかねますが、3D映像で岩や車などを立体的に見えるようにできればと考えております。
	堆砂量の分析の関係で、再々委託となることは可能でしょうか。	委託費は外注費として補助対象経費に含まれますが、再々委託の場合、採択者と再々委託事業者との関係性や補助対象事業に係るものであることがわかる書類を提出していただいたうえで、補助対象経費となるかを判断します。
課題② 潮位の影響による常時満水及び滞水状態の管渠の劣化度調査及び改築・修繕方法	対象となる雨水幹線の管径や対象範囲(距離)、管内部にある設備を教えてください。また、水中ドローンを投入するマンホール等の口径、配置、雨水幹線までの深さも併せてご教示いただけますでしょうか。	神戸市内には海域に雨水を排水する雨水管渠施設が数多くあり、潮位の影響を受ける区間全てを対象とした課題と考えております。管径、対象範囲、配置、深さは、雨水幹線ごとに異なり一義的に回答することが難しいですが、実証候補地の管径は、人が入って作業ができる大きさ(φ800mm以上)を想定しています。なお、投入口のマンホール等の口径はφ600mmで、雨水幹線総延長約800kmの内、潮位の影響を受ける延長は概ね30km程度です。具体的な実証候補地は、採択決定後、課題提出者・採択者・神戸市企画調整局の3者で相談のうえ決定します。 (参考)公共下水道台帳URL https://www2.wagmap.jp/kobecity/Agreement?IsPost=False&MapId=36&RequestPage=%2fkobecity%2fPositionSelect%3fmid%3d36
	雨水幹線内にて予想される流速及び水質(濁りの有無)について、お判りになればご教示いただけますでしょうか。	潮の満ち引きによる波が生じていることは予測されますが、晴天時に調査を行うため、上流から流れてくる雨水排水による流速は生じないと考えられます。水質は、場所や調査日により濁りの状況は異なりますが、滞留した海水中に土砂や海砂等が含まれ細粒分が浮遊していることもあるため、多少の濁りはあると考えられます。